

2022年3月23日
株式会社シーエス・ワンテン
株式会社日本ケーブルテレビジョン

2021年度CNNj番組審議会議事録

1. 開催年月日：2022年3月23日
2. 開催方法：感染症対策のためオンライン開催
3. 参加者 審議委員総数 8名
参加委員数 7名

(委員)

委員長 小池 生夫 (慶應義塾大学および明海大学名誉教授・言語学博士)
委員 大宅 映子 (評論家)
委員 石川 次郎 (編集者 (株)ジェイアイ社長)
委員 吉永 みち子 (ノンフィクション作家)
委員 小西 克哉 (キャスター)
委員 国府 弘子 (ピアニスト・作編曲家)
委員 パトリック・ハーラン (パクン) (タレント)

(欠席委員)

委員 稲生 衣代 (青山学院大学教授)

(衛星基幹放送事業者：(株)シーエス・ワンテン)

代表取締役社長 福田 泉
編成局長 谷 俊之

(番組供給事業者：(株)日本ケーブルテレビジョン)

代表取締役社長	川島 保男
取締役(放送事業局担当)	山本 陽一
放送事業局長	鈴木 隆泰
編成管理部編成・運行担当部長	村上 聡
総務局長	鈴木 正市
総務部長	城戸崎 ゆり

4. 審議番組

(1) 「特別番組：陰謀論 Qアノンのカルト性 日本語字幕版」 (60分)

CNN Special Report: The Cult of QAnon

放送日時：2021年7月16日(金) 21時30分～

世界中で拡大する極右陰謀論「Qアノン」の信奉者。トランプ前大統領を支持し大統領選の結果を否定、議会に乱入した。彼らの拡散の仕組みやカルト性などその実態に、CNNを代表するアンカーのアンダーソン・クーパーが迫る。

<委員意見>

- *Qアノンについては、アメリカの大統領選の頃から情報が入って来ていたので知っていたが、彼らの考え方や行動が掴みどころのないように感じた。Qアノンの主張がこれほど細かく放送されることは日本では無いので、もっと番組を広報したら良かったのではないかな。バックグラウンドの説明も必要だと思う。かなり話題になり得る番組だと思う。
- *明らかに今までのQアノンの報道とは異なり、一歩踏み込んで良く理解できた。陰謀論がSNSによって大量に拡散されて、実際に信じている人がいる事に違和感を持った。Qアノンの話よりもSNSの広がり方が昔と全く違うことに驚いた。
- *興味深く観た。実態が見当たらない話なのに、信奉者がいるという事にSNS時代の不気味な一面を感じた。今、世界で格差が一層広がっていく中で、日本人も知るべき課題だと思ったので、日本国内でも、より多くの人が見られると良いと感じた。
- *とても面白く、今的な番組だ。アンダーソン・クーパー自らが理論的に説明をしても、相手はゲーム感覚で荒唐無稽な解釈をする。Qアノンには政治性もあり、反民主党でトランプ信仰者でもある。実際に2名の連邦議会議員も誕生させ、米国議会議事堂を襲撃する勢力となるほどの力も有している。日本でもデモを行っており、アメリカ同様にトランプを支持している。今後Qアノンの国際的な広がり等も取材をしてもらいたい。
- *アメリカにはFactよりFeeling、エリートより一般人の意見や気持ちを優先し、重視する傾向がある。アンダーソン・クーパーに論破されてもQアノン信奉者は気にしない。全体的に煽り気味に制作されていると感じた。
- *日本には無い制作手法だと感じた。1シーンが短く、とても速く映像を切り替えていくので、内容が印象に残る。日本ではカルト集団の当事者がTVに登場することは少ないだろう。あらためて日本人は穏やかな国民性だと思った。Qアノンの人間関係が不思議で、我々には理解できないと感じた。
- *日本のメディアでもQアノンは今まで取り上げられてきたが、その実態を十分に把握することが難しかった。この番組では徹底的に検証しており、かなり理解が深まった。アンダーソン・クーパーがジャーナリストとして、また当事者として、取材に積極的に関わったこともあり、見応えがあった。

(2) 「特別番組：マーヴィン・ゲイ 『ホワッツ・ゴーイン・オン』 50周年」
(45分)

CNN Special Report: What's Going On: Marvin Gaye's Anthem For The Ages

放送日時：2021年12月21日（火） 13時～

反戦、人種差別、警察の横暴など、アメリカの社会問題に、すでに50年前に言及していたマーヴィン・ゲイの「ホワッツ・ゴーイン・オン」。この歴史的名盤が放つメッセージが、現代にも有効な背景について、CNN アンカーのドン・レモンがステイーヴィー・ワンダー、スモーキー・ロビンソン、スパイク・リーらに聞く。

<委員意見>

- *アメリカ音楽は好きだが、マーヴィン・ゲイは知らなかった。日本語版を見ても理解できなかったが、英語版を2回見て理解できた。ミュージシャンのバックグラウンドを知らないと分からないので、解説があった方が良かった。彼の時代から40～50年経っているのに、アメリカではいまだに人種差別が続いていて解決していないことにあらためて気づかされる。
- *一つの曲を取り上げて番組を作る手法は、以前他局でも視たことがあり、とても印象に残っている。この曲は優しい歌声とメロディなので、プロテストソングだったとは知らなかった。音楽に聞き入るだけでなく、歌詞を知ることが大事だと思った。面白い企画なので、地上波等、もっと沢山の人にってもらいたい内容だ。
- *マーヴィン・ゲイは知らなかったが、他のミュージシャンが登場してグルーヴ感を感じた。今の国際情勢や「Black Lives Matter」の背景を考えると、今こそ沁みる曲ではないかと思った。日本語訳を理解しようと聞いていると、この番組（音楽）の本来のパワーやノリが遠のいてしまって残念だ。
- *1984年4月1日はマーヴィン・ゲイが実父に殺害された日で、日本で「CNN ディウォッチ」が始まった日でもある。初日のニュース項目にマーヴィン・ゲイ殺害のニュースがあったと記憶している。このような美しいメロディを音楽にのせて、現代でもこの音楽が通じるということが素晴らしい。「曲を通じて時代を語る」番組がもっとあっても良いと思う。
- *音楽業界では、多くの苦しみの中で亡くなったことが知られているが、ジャンルを問わず皆から愛されたミュージシャンだった。このスペシャルレポートは短編映画並みのおもしろさだった。
- *マーヴィン・ゲイの他の有名な代表曲も沢山あったのに流れず、字幕も出ず、大変残念だった。日本でも知られている曲を流せば、もっと番組の内容が分かりやすかったのでは、

と思った。ビリー・ホリデイだけではなく、他のミュージシャンのプロテストソングの紹介もあれば、番組の理解が更に深まったと思った。ウクライナ侵攻以前の OA なら反戦の歌詞と思えるが、今まさに世の中はウクライナ侵攻の最中であり、あらためてこの番組を見るとタイムリーだと思った。

*テンポが早かったが、解説があったので良く理解できた。初めて知ることが多かった。アメリカの文化の裏側を感じた取材内容だった。

5 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

ローカライズの手法について、引き続き検討を重ねる

6. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

2022年5月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上